

救急科

当救命救急センターは1次～3次まであらゆる救急疾患を診るいわゆる北米ER型救急を実践しており、救急車搬送数は年間9000台以上、救急受診者総数は3万人を優に超える。専攻医は本格的なERでの研修に加え、救急ICUでの重症管理、ドクターカー、ドクターヘリによるプレホスピタルケアなども学ぶことができる。VV ECMOなど限られた施設でしかできないことも積極的に取り組んでいる。また他科ローテーション、行先を自由に決められる院外研修など自由度が高いのも特徴である。

当院は研修医の倍率が高いことでも有名であり、英語の試験を突破した優秀な初期研修医が全国から集まっている。施設と人材どちらも兼ね備えている全国でも有数の市中病院であろう。私は他院で初期研修を行い、3年目から当院救急科で専攻医として働いている。誰よりも勉強しない初期研修医を自負していた当時の私にとって、当院のような優秀な所に来るのは、本当に大きなチャレンジであった。まさに「清水の舞台から飛び降りる」つもりで当科に飛び込んだのである。そして、実際に働いてみてどうだったかという、予想通りに最初は苦勞することとなった。皆が話す海外ジャーナルの話など論文をまともに読んだことすらなかった私には理解できるはずもなかったし、根拠なくこれまでやってきたことは受け入れられなかったのだ。何となくやっていることは施設が変わると何一つ通用しないのだということを感じた。

しかし、人間は慣れるもので、気が付けば今では初期研修医に論文の読み方を教えている自分がいる。日々反省をしながらも意外に楽しくやっているのだ。優秀な先生方と日々訪れるたくさんの患者からEvidence-based medicineの大切さや、同時にエビデンスだけでは通用しない実臨床の難しさ、どちらも学ばせていただいている。学ぶと教えたくくなり、教えることでさらに学ぶ、こんな研修の日々を送っている。気が付けば3年の後期研修が終わろうとしているが、振り返ってみると言葉では言い尽くせないほど本当にたくさんのことを学ばせていただき、救急医としてはもちろん、医師として多分に成長させていただいたと思っている。

救急医、もしくは志望科を決めかねている諸先生方には、当科での研修を強くお勧めする。医師としてのキャリアアップに最適であることはもちろん、どんな状況に出くわしても体が反射的に動く、そんな頼れる医師となることだろう。